

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査における 本校の結果分析と今後の学習指導の取組について

新宿区立淀橋第四小学校

## 1 全国学力・学習状況調査について

全国の小学6年生と中学3年生を対象として、学力・学習状況調査が行われました。本校児童の結果のまとめと今後の取組についてお知らせします。

## 2 結果の分析と今後の取組（○成果、△課題、→考察や改善のための本校の取組）

実施教科	A 問題 (主として知識に関する問題)	B 問題 (主として活用に関する問題)
国語	<p>○全領域・全観点において、東京都、全国の平均を上回っている。特に「書くこと」「読むこと」については、大きく全国平均を上回っている。文章全体の構成の効果を考えたり、登場人物の心情について、情景描写を基に捉えたりする力が定着してきていると考える。漢字の問題も全て全国平均を上回っており、日頃から、漢字の習熟に取り組んでいる成果が見られた。</p> <p>△相手や場面に応じて適切な敬語を使う問題では東京都、全国の平均値を下回っている。</p> <p>→授業だけでなく日常生活から相手に応じた話し方を身に付けていけるように言葉遣いについて指導していく。</p>	<p>○目的や意図に応じて、何を読めばよいか選択したり、内容を押さえながら読んだりする問題の正答率が高く、東京都、全国の平均を超えている。併せて、「話す・聞くこと」の力の定着が見られる。</p> <p>△字数制限のある中で、目的や意図に応じて文章構成を考えたり、内容の中心を明確にして書いたりする力に課題が見られる。</p> <p>→字数を指定して紹介文を書く活動を取り入れるなどして、内容の中心を明確にして書く力を付けていく。</p>
算数	<p>○全領域・全観点において、東京都、全国の平均を上回っている。特に数量関係においては、大きく全国平均を上回っている。毎日の繰り返し学習により、知識・技能が定着したためと考えられる。</p> <p>△円周率を求める式として正しいものを選ぶ問題では全国平均を下回った。</p> <p>→円周率の意味について正確に理解しきれていないところがある。円以外の図形について公式を覚えることも必要だが、その公式がどのようにしてできたものなのかを考える機会を繰り返し設けていく</p>	<p>○A 問題同様、全領域・全観点において、東京都、全国の平均を上回っている。様々な課題解決の方法を導き出す授業が実を結んできていると考えられる。</p> <p>△グラフを正しく読み取る問題での正答率が、東京都や全国の平均を下回っている。</p> <p>→グラフや表の読み取り方を適宜指導するとともに、社会科や理科の授業においてもグラフや表を読み取る活動を取り入れていく。</p>

理科	<p>○自然事象への関心・意欲・態度、観察・実験の技能において、東京都・全国の平均を上回っている。授業で、児童が予想をもとに観察や実験の計画を立てていることが、力になっていることが分かる。</p> <p>△科学的な思考・表現の観点において東京都や全国の平均を下回るものが多かった。実験や観察から分かったことを言語化することに課題がみられる。</p> <p>→学級で他者と意見交換をするなどの活動をさらに取り入れ、指導していく。</p> <p>△単元「流れる水のはたらき」の正答率が低かった。</p> <p>→映像や画像など視覚的資料を活用し指導し児童が実感して理解できるようにする。また、実験や観察から分かったことを記述する習慣をつけるなどして、知識の定着を図る。</p> <p>△骨や人体に関する問題では、科学的な言葉や概念について正答率が低かった。</p> <p>→模型や映像を有効に活用して、骨や筋肉の動きを意識して理解できるようにする。</p>
生活習慣や学校環境に関する質問紙調査	<p>○自分にはよいところがある、また、そのよさを認めてもらっているという質問に肯定的な回答をした児童が、東京都、全国の平均を上回っている。また、いじめはどんな理由があってもしてはいけないと全児童が回答している。児童が、自分も他人も大切にしようとしていることが分かる。</p> <p>○「算数の授業の内容はよく分かりますか」という質問事項に肯定的な回答をする児童が9割以上おり、算数の勉強が好きだと回答する児童も8割を超えている。学習内容の定着が、より意欲的に取り組もうとする姿勢につながっているのではないかと考える。</p> <p>△「将来の夢や目標をもっていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問事項に否定的な回答が多くみられた。</p> <p>→自分がどのように成長していきたいのか、どんな大人になりたいのかなどを、道徳の時間などに考えたり、友達と話し合ったりする時間を確保し、将来に向けたビジョンをもてるようにしていく。</p> <p>△睡眠時間や朝食を食べるといった生活面に関する質問事項では、都や全国の平均よりも数値が低い。</p> <p>→学習への集中力や健康面への影響を継続的に指導し、家庭とも連携をとり、児童が生活を自ら見直すことができるようにしていく。</p>

### 3 結果の返却とご家庭での活用について

個人票とあわせて、問題用紙を返却しました。ぜひ、総合的な正答数だけでなく、教科別、単元別に問題と結果を照合してご覧ください。

今回、国語科の言語の分野においてやや課題がみられる結果となりました。授業の中でも、結果を踏まえた授業改善に努めてまいります。同時に、言語環境をよりよいものにしていく必要があります。現状として、児童同士の関わりにおいては、むしろコミュニケーションを阻害してしまうような言葉の選択もみられます。子どもたちは、大人の振る舞いを見ることで学ぶ力をもっています。学校、地域、家庭が一体となってよりよい言語環境を構築することで、子どもたちにコミュニケーションの力を身に付けさせることができると考えます。

今回の学力調査の結果を基にした学校の指導改善にご理解をいただくとともに、引き続きのご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。